

1 調査日 令和4年7月14日(木)

2 調査の概要

(1) 彦根地方気象台(彦根市城町)

彦根地方気象台では、明治26年(1893)年に滋賀県立彦根測候所として設立され、県から国の機関と変更されたが、130年近くにわたって観測を続けられ、防災情報や天気予報を伝えている。特に、①大雨・大雪などの特別警報や台風情報、地震などの命を守るための情報、②天気予報や季節予報などの生活と密着に関わる情報、③異常気象の監視・分析や地球温暖化の予測などの地球環境に関する情報を県民等へ知らせるとともに防災危機の面にて県との連携を行い、近年増加している自然災害への対応に取り組んでいる。

また、本年6月1日から大雨に関する警戒情報を改善し、豪雨をもたらす「線状降水帯」を発生約半日から約6時間前に予報できることとなった。更に、河川の氾濫危険情報の迅速化なども明らかにされ、命を守る対策を強化された。

ついては、今後の委員会活動の参考とするため、彦根地方気象台を訪問し、同施設が予報している本県の自然災害や気象特性ならびに近年増加している豪雨や地震などについての危機管理対策の県との連携等について調査を行うとともに、現地を視察した。

